

達の見方を養うことが、指導法そのものよりずっと重要といえる。長年にわたって子どもの成長をみたとき、そのことは一層明瞭になる。見方が養わると、指導法はそこから生まれてくる。

子どもがしていることを直接に見たところでだけしかとらえないのでではなくて、おとな目のには見えず、気付かれていらない世界がその底にあることを前提とせねばならないと思う。子どもという神秘的な存在、未知なるものを多くもつ存在に対するおそれを感じずにはいられない。いま気が付いていない世界のあることに気付き、そこからの声に耳を傾け、そのあらわれである表現に目を開くことがたいせつなのだと思う。子どもはそれをやっているのだ。現代に住む私共は、あまりにも自分にとらわれた狭い世界に住んでいる。

幼児の教育 第七十一巻 第十一号

十一月号 定価一〇〇円

昭和四十七年十月二十五日印刷  
昭和四十七年十一月一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼  
発行者 津 守 真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一  
発売所 株式会社 フレーベル館  
振替口座 東京一九六四〇番

◎ 本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします